| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科目名称 | 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ（呼吸機能障害） | 学年学期 | 単位数 | 時間数 |
| | | 第 1 学年　後期 | 1 | 30 時間のうち 15 時間 |
| 担当教員 | 渡辺　浩毅 | 授業に関わる実務経験 | ■ 有（　医師　）<br>□ 無 | |

**【1】 授業概要**

疾病により心身機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各商状の特徴や治療法について理解し、看護実践における観察や治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠とする。

疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱでは呼吸・循環の機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

**【2】 学習目標**

1. 呼吸器疾患を理解する。

**【3】 第 1 看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性**

□ 1. 生活者としての人間の理解
□ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
□ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
□ 5. 多職種との連携・協働
□ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

**【4】 授業計画**

| | 内容 | 主な授業形態 |
|---|---|---|
| 1 | 呼吸器系の構造と機能　症状と病態生理　診断と検査 | 講義 |
| 2 | 呼吸器感染症 | 講義 |
| 3 | 呼吸器感染症とアレルギー性疾患 | 講義 |
| 4 | 閉塞性障害と拘束性障害 | 講義 |
| 5 | 肺循環障害　換気障害 | 講義 |
| 6 | 換気異常　肺癌 | 講義 |
| 7 | 胸腔疾患　呼吸リハビリテーション　禁煙指導 | 講義 |
| 8 | 試験 | |

**【5】 評価方法**

授業での積極性と筆記試験で総合的に評価する。

**【6】 教科書**

系統医学講座　成人看護学②　呼吸器　医学書院　2020 年　15 版

**【7】 参考書**

なし

**【8】 受講生へのメッセージ**

呼吸器系の病態生理と疾患を教科書に沿って説明します。必要に応じてプリントを使い、臨床での事例を加えて、呼吸器疾患を理解し、興味が持てるような講義としたいと考えております。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科目名称 | 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ（循環機能障害） | 学年学期 | 単位数 | 時間数 |
| | | 第 1 学年　後期 | 1 | 30 時間のうち 15 時間 |
| 担当教員 | 松本　健吾 | 授業に関わる実務経験 | ■ 有（　医師　）<br>□ 無 | |

**【1】 授業概要**

疾病により心身機能が障害されると、様々な症状を引きおこし生活に影響を及ぼす。各商状の特徴や治療法について理解し、看護実践における観察や治療法について理解し、看護実践における観察や判断の根拠とする。

疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱでは呼吸・循環の機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

**【2】 学習目標**

1. 心臓血管系の正常な構想と機能を理解し、循環機能障害と回復への過程を理解できるようになる。
2. 心臓血管系機能障害を系統立てて理解し、疾病に対する観察力や判断力を養い、適切な看護計画を立案・実行・評価できるようになる。

**【3】 第 1 看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性**

□ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
□ 5. 多職種との連携・協働
□ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

**【4】 授業計画**

| | 内容 | 主な授業形態 |
|---|---|---|
| 1 | 心臓の構造ときのうおよび循環器疾患の症状と病態生理 | 講義 |
| 2 | 循環器疾患の診断および治療 | 講義 |
| 3 | 虚血性心疾患について | 講義 |
| 4 | 心不全および血圧異常について | 講義 |
| 5 | 不整脈について | 講義 |
| 6 | 弁膜症・心膜炎・心筋疾患・肺性心について | 講義 |
| 7 | 先天性心疾患・血管疾患・リンパ系疾患について | 講義 |
| 8 | 試験・まとめ | |

**【5】 評価方法**

試験（記述問題と選択肢問題）と、授業・学習への取り組みにより総合的に評価する

**【6】 教科書**

系統看護学講座　成人看護学③　循環器　医学書院　2020 年　15 版

**【7】 参考書**

なし

**【8】 受講生へのメッセージ**

循環器疾患の医療は、救命に一刻の猶予も許されない救急医療やハイテクを駆使した診断と治療、急性疾患の後遺症や慢性疾患患者と向き合い、その家族を含めて社会復帰を目指しての看護などに代表されるように、切れ目なくダイナミックに展開される特徴を学ぶ。近年、循環器疾患による死亡者数は増加傾向にあり、現在、悪性新生物についで第 2 位を占めている。患者お年齢は全世代に及び、年齢によって疾病構造も異なる疾患の背景を学ぶ。